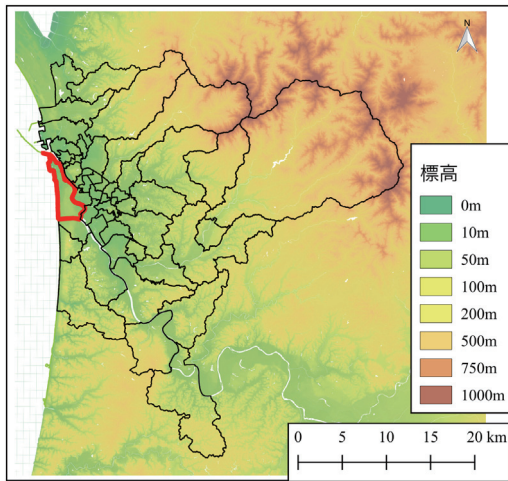


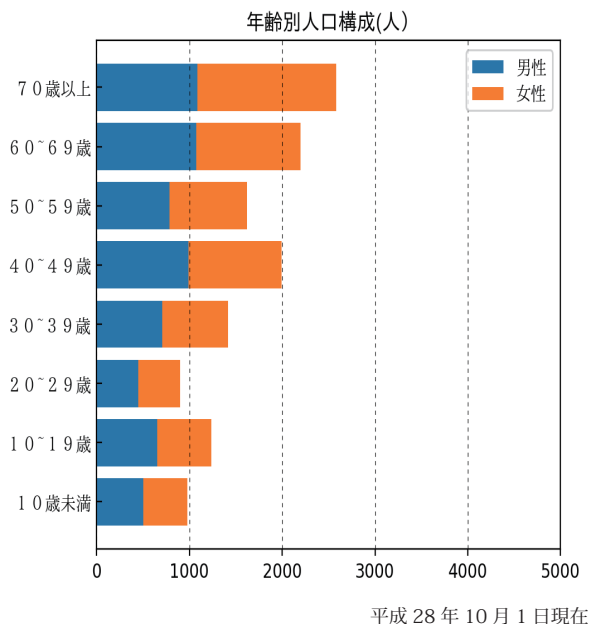
27：勝平小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	12,923 人
世帯数	5,412 世帯
65 歳以上人口	3,765 人
10 歳未満人口	980 人



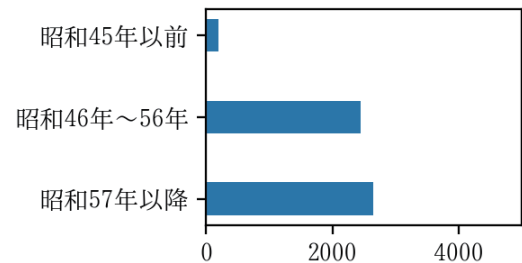
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	5301
非木造建物	544

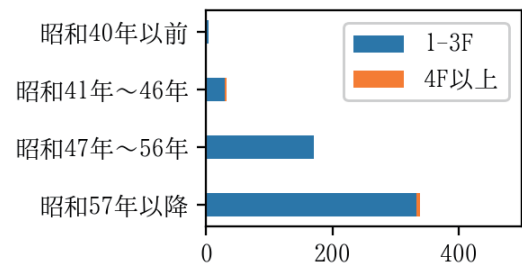
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	2,650
昭和46年～56年	2,457
昭和45年以前	194



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	333	6
昭和47年～56年	170	0
昭和41年～46年	30	2
昭和40年以前	3	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

雄物川河口部右岸側(北側)で旧雄物川と日本海に挟まれた地域である。北部は秋田港に面し工業用地、ゴルフ場、自衛隊の演習地などであり、南部は住宅が集中している。1983 年日本海中部地震の際には、新屋松美町の造成地で液状化による建物被害が発生した。人口構成として 40 歳代以降の占める割合が比較的高く、65 歳以上は 29% 程度となっている。昭和 57 年以降の建物は全体の 51% である。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	雄物川		
浸水面積 (%)	6.0		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	1	船場町
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 弱	
(計測震度)	(5.78)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	2	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	2.8	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合）

浸水面積 (%)	47.9	
最大浸水深 (m)	13.8	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	7
婦人幼児支援	1
障がい者等支援	10

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	3
こども園	1
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	1
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	133
防火水槽（箇所）	16
消防車台数（台）	11
消防ポンプ数（台）	4
消防団員数（人）	79

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	10
土砂災害	10
地震	10
津波	9
福祉避難所	1
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	2

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医点数（歯科を除く）	2
最寄りの救急告示病院	市立秋田総合病院
自主防災組織数	13

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により学校区の東部の一部で 3m 未満の浸水となることが想定されている。

土砂災害の危険性は、がけ崩れの危険性が指摘されている 1 箇所を除き、ほぼ無い。

地震時の揺れやすさも学校区全域ではほぼ同じ揺れ方をするものと見られる。ただし、液状化の危険性は高い。津波により学校区北部の工業地域および西部沿岸区域、さらに東部の一部において浸水する可能性が想定されている。北部の工業地域では全体に 5 m 以上、東部の住宅地の一部では 3m 未満の浸水となる。

防災上の課題と対策

1983 年日本海中部地震では、学校区の北部（工業地域）で液状化による建物被害が発生しているが、津波の襲来による浸水被害は発生しなかった。今後、日本海を震源とする地震が発生した場合には、ゆれによる被害並びに津波被害に対して十分に注意する必要がある。特に雄物川の河口付近、秋田港周辺では注意が必要である。

住宅等の一般建物は南部に集中しており、建物密集度が高い。木造建物のほぼ半数は旧耐震建築物であり、ゆれによる被害の危険性が高い。津波災害時の緊急一時避難所は 9 箇所あるが、津波避難ビル及び津波時に利用できる指定避難所は現時点では無い。

建物が密集している地域では、地震時に建物の倒壊や火災の発生等によって道路通行に支障が発生する可能性があ

る。秋田市街中心地方面への道路（橋梁）が限定されるため、交通を安定的に確保することが地域の防災にとっても重要な懸念事項となる。

特に北部では就業者等の非居住者の滞留も多く発生する可能性がある。非居住者の避難、帰宅方法についても検討しておく必要がある。

町内会や事業所において、災害時の避難方法（経路、場所、備蓄）などについて自主的な避難計画を検討するなどが重要である。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模火災	
秋田商業高等学校グラウンド（サッカー場、硬式野球場、陸上競技場）	x	○	○	○	○	x	津波 37,060 人 津波以外 18,530 人
秋田商業高等学校	○	○	○	○	x	x	1,250 人
勝平小学校グラウンド	x	○	○	○	○	x	津波 9,970 人 津波以外 4,985 人
勝平小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	514 人
勝平中学校グラウンド	x	○	○	○	○	x	津波 10,810 人 津波以外 5,405 人
勝平中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	561 人
勝平地区コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	124 人
国土交通省 秋田防災ステーション敷地	x	x	x	x	○	x	9,400 人
割山自動車教習所 コース部敷地	x	x	x	x	○	x	9,050 人
松美ヶ丘第三街区公園	x	○	○	○	○	x	津波 3,000 人 津波以外 1,500 人
新屋松美町緑道 （勝平日吉神社隣接広場）	x	○	○	○	○	x	津波 6,300 人 津波以外 3,150 人
勝平市民グラウンド	x	○	○	○	x	x	11,770 人
向浜運動広場旧運転練習場	x	x	x	x	○	x	10,000 人
秋田カントリークラブ コース内、クラブ前駐車場	x	x	x	x	○	x	110,350 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
秋田県身体障害者更生訓練センター	新屋下川原町 2-3	018-863-4471

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
（該当なし）			

津波警報サイレン

施設	所在地
秋田市汚泥再生処理センター	向浜一丁目 13 番 1 号
秋田防災ステーション	新屋字天秤野 148 番地

